

第5回倉敷市総合計画審議会 第2分科会議事録（要旨）

会議名称	第5回 倉敷市総合計画審議会 第2分科会（文化・産業）	
開催日時	令和2年7月10日(金) 15:00～16:30	
開催場所	倉敷市役所 10階大会議室	
出席者 ※敬称略	審議会 委員	井上 稔裕, 大賀 環子, 大島 康弘, 尾崎 聡, 後藤田 恵子, 永井 圭子, 中島 光浩
	市職員	企画経営室長, 総合計画策定研究班員ほか担当部署職員, 事務局
関係者	関係者	委託事業者
傍聴者	傍聴者	なし
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 現況及び今後のスケジュールについて 3. 総合計画（協議） 4. その他 5. 閉会 	

1. 開会

2. 現況及び今後のスケジュールについて

(事務局が資料を説明)

分科会長	スケジュール案では、次は8月の分科会で11月に答申か。
市	今はそのように考えているが、新型コロナウイルスの状況によっては、想定通りにいくかどうかはわからない。前倒しでスケジュールを組んでおり、仮に延期となっても年度内で納められたらとは思っている。
委員	今後、まちづくり指標も示されると思うが、難しそうという印象だ。
市	指標についてはまだお示しておらず。本日のご意見を受けて修正した内容に指標も盛り込んだ形で、8月に見ていただきたい。
委員	何を選んで、どうしていくのかということは難しいのではないかと思う。今日の資料に示されていないということで、了解した。

3. 総合計画（協議）

質疑応答

分科会長	分科会の担当分野の項目や冊子全体を含めて確認していきたい。説明された基本計画の項目について、気になることやご意見はないか。
委員	先日、メールで意見を提出し、委員意見一覧と対応案の資料が届いたが、記載がなかったので教えてほしい。SDGsの目標12, 14, 15などは文化産業の項目で関係するので増やしてはと思うのだが。
市	漏らしたつもりはなく、申し訳ない。基本構想の各分野でSDGsのゴールのアイコンを表示しているが、先ほどご説明した基本計画の部分にも同様に表示を考えている。各項で整理すれば、ご指摘のあった点を含めてもっと増えると考えており、次回お示ししたい。
分科会長	60, 61 頁の2-8で、以前の分科会でも、観光客の足と周遊性について話が出て、MaaS (Mobility as a Service の略: 次世代モビリティサービス) を入れた方が良かったといった意見もあった。スマホ1つで、鉄道やバスも利用でき、タクシーやレンタカーも手配でき、予約決済が一本化される。例えばJTBやJR等と提携してアプリ開発のようなことを目論んだらどうか。この3か月位、コロナの影響で個人的に考え方が変わったこともあるが、水島の臨鉄駅から児島駅まで線路を引くことも、茶町駅から倉敷駅まで電車に乗ることも現実的ではないため、研究してはどうかと思う。見知らぬ人とのタクシーやレンタカーの相乗りなど、まだ日本人の考え方やスタイルに当てはまらないかもしれないし、アプリの仕様などは工夫が必要だろうが。
委員	基本構想の「倉敷市のすがた」の歴史の頁で、高梁川に架かる橋がいつ頃できたのかということに触れてはどうか。大きな川を渡るのに唯

	<p>一の支えで、人の交流ができ、倉敷や玉島が繋がったということは、大きな意味があると思うので、橋のヒストリーも加えてほしい。</p> <p>また、昭和43年に倉敷市伝統美観保存条例が制定された後に、町並み保存地区として児島と玉島も指定されたと思うが、これも記録に残してほしい。</p>
市	<p>歴史文化基本構想等を基に作成しており、明確にわかれば入れたい。</p>
委員	<p>タイトルに糸偏に関わる漢字が使われているが、「慈しみ」は愛と夢とを大切にという形で、良い字だと思う。</p> <p>25頁、めざす将来像で『豊かな自然と紡がれた歴史・文化を「次代へ繋ぎ」』の「繋」について、22頁に書かれている意味とあわせて、糸と糸が絡み合っても、それを束ねるものがあれば良いなと思っている。糸の大元になる繊維の「維」は、倉敷市が日本遺産になったのも、綿の糸が繊維としてつながれたもので、この「維（つなぐ）」がいいのではと思った。一方で、25頁で、次世代に繋ぐとなると、また意味合いが違ってきて、「継ぐ」の「継（つなぎ）」が良いかもしれないとも感じている。</p>
分科会長	<p>ここは相当議論があったのではないかと思うが、事務局はどうか。</p>
市	<p>分野にふさわしい文字の検討を行う中で、「継ぐ」が良いという話もあったが、生活環境や基盤、「つなぐ。かかわる。きずな。」というところで「繋ぐ」を優先した。いろいろなご意見が出ることも考え、他の候補として下部に残しているところだ。最初（めざすまちの姿：第1分野）の「慈（いつくしむ）」は良いということでもいいか。「慈（いつくしむ）」は良いということでもいいか。</p>
委員	<p>（めざすまちの姿：1, 2, 4, 5の各分野においては、）「慈しむ」、それから文化を「紡ぐ」、「結ぶ」、「絆」も良いと思っている。第3分野は、倉敷の日本遺産になった繊維の「維」を「つなぐ。ささえる。たもつ。」といった大元になる「維（つなぐ）」が良いと思った。「繋」だと若い人たちにはわかりにくく、捉え方に違いがあるのではないかと思う。</p>
市	<p>めざすまちの将来像の「次代につなぎ」との関係性、あわせて分野の割り振りで、第3分野の「生活環境・防災・都市基盤」として、どちらが良いのかと考えると、繊維の「維」より、継承の「継」の方が良いかとも思う。</p>
委員	<p>「つなぐ」の漢字だけが引っかかっている。</p>
市	<p>今は1つの漢字だけを候補としており、そのまま2つを候補に残して、というのがあるのではないかと思う。考えさせていただきたい。</p>
委員	<p>検討してほしい。</p>
分科会長	<p>1つのシンボルとなるので、ご検討いただきたい。</p>
委員	<p>関連して、めざすまちの将来像に、「慈しむ」は入っていないのか。</p>
市	<p>この言葉を整理するのに大分苦労した。「慈しむ」という言葉をキャッチコピーに入れようとして、検討も行ったが、あまり文字数が長くな</p>

	<p>るのも良くないのではないかという話になり、ご提示した内容となっている。そのため「慈しむ」が入らなかったといったところだ。</p>
委員	<p>せっかく5本の柱とするのなら、入れても良いのではないか。</p>
市	<p>例えば、「豊かな自然」という言葉は、第六次総合計画に基づいて入れている。ここを「慈しむ心で」と変えて5つを揃えることもできるが、自然と歴史文化を次代につなぎということが、文言としては良いのではないかと思っている。全体の糸の漢字との関係性を取れていないが、そのような現状だ。</p>
委員	<p>糸と糸が絡んでいるのではなく、「慈しみ」で1つの扇の要のような、ポイントを1つ結ぶという所で、落としどころがあれば良いと思う。</p>
分科会長	<p>愛の概念が入っているのが良く、それは外せないと思う。以前、文化産業で郷土愛といった言葉を入れてほしいという意見もあったが、良い落としどころを考えてほしい。</p>
市	<p>検討する。</p>
分科会長	<p>13頁、「私立美術館」、「市立美術館」は、どちらが正しいのか。</p>
市	<p>「私立」が正しく、修正する。</p>
分科会長	<p>56頁で、Society 5.0の考えもでていますが、計画の初年度から、Society 5.0に関する施策、例えば国の補助事業に関連するものがないのか。教育分野では、Society 5.0を入れたら施設整備に補助金という話も聞こえている。文化産業で、例えばSociety 5.0化により地域の活性化基本構想といったことができたなら予算が付かないのかなどと思ったが、国の考え方による。</p>
市	<p>Society 5.0は、市が独自に進めていくと言えないところがあり、一方で、民間サイドが対応していく部分を支援するという体制を打ち出していこうというところでもある。</p> <p>国のSociety 5.0推進を受けて、例えば、行財政の分野の112頁「先端技術が生活に溶け込んでいる」では、市の仕事の中にもICTを活用することや、学校教育でオンライン授業の導入、キャッシュレス化やマイナンバーカードに触れている。他に、先ほどのMaaSやドローンなど様々なことが産業に活用されていくのだと思うが、そこは市が主導というよりは、民間の方が取り組んでいくのを側面から支援していく立場になると考えている。</p>
分科会長	<p>AIなどは企業の箇所で入っているし、行政サービスでもAIを導入する形になり、今後の課題になっていくし、大きく時代が変わると思う。</p>
委員	<p>6頁の倉敷市のすがたのところ、年表の後に、倉敷市の誇るものが出てくるが、ここにタイトルを入れてもらえたらわかりやすいと思う。</p>
分科会長	<p>アラカルト的に並んでいるので、タイトルを入れてはどうか。</p>
市	<p>タイトルを検討する。また、先ほどの「慈しむ」について、『豊かな自然と 紡がれた歴史・文化を 次代へ繋ぎ 人と人との絆と「慈しみの心」で 地域を結ぶまち倉敷』ではどうか。</p>
委員	<p>良いと思う。</p>

市	第2分科会で、5つの糸の漢字を目指す将来像に盛り込んだ方が良いのではという意見があったと、他の分科会でも話をしていきたい。
委員	<p>全体的には、糸で色々表現されていて、倉敷らしくて非常に良いなと思った。内容も非常に納得のいくものだ。「つぐ」なども、糸ということになれば、ストーリー性があって良いと思う。</p> <p>計画案を、全体的には糸偏ということで書いて頂き、良いと思っているが、部分的には、どこかで繊維という言葉を入れて頂ければ、より身近に感じられるのではないかと感じている。</p>
市	今は1つの糸の漢字を象徴的に書いているが、これを2つにするなど、繊維の「維」という字も、漢字でイメージして、重複してつながるように増やしていければと思う。次回、修正した事務局案をお示して、ご意見をもらえればと考えている。
分科会長	「継」と「維」とでは語感やイメージがそれぞれ違い、並立案など工夫して頂ければと思う。
委員	46頁の2-1、現状と課題の1つ目で「国内外の様々なジャンルの作品」と記載があるが、何かイメージされているものがあるのか。
市	担当にはあると思う。言葉足らずなので確認してわかりやすくする。
委員	50頁の2-3、スポーツに関して、20歳世代や女性の方の実施率の低さの記載がある。倉敷で何か1つ、メインとなるスポーツを、マイナースポーツでも良いので見つけていくのも手かと思う。具体的に何が良いかはわからないが、独自スポーツみたいなことでの推進など、5年、10年かけて、やっていくようなことができれば、指標の方へも現れて来るのかなと思う。
分科会長	何か具体的なものはあるか。
市	<p>「歩くことや、身近なところで身体を動かすこともスポーツだ」と言われている。スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」といって、スポーツのボランティアをしたり、スタジアムに行って、スポーツを応援することもスポーツの一環として捉え、スポーツの枠を広げてみんなで取り組んでいこうということを、国でもさかんに言っている。</p> <p>市でもスポーツ基本計画を今年度中に策定予定だが、スポーツの枠を固めず広く捉え、身近で簡単にできるスポーツに取り組んでいくことを進めたいと考えている。施策としては、生涯スポーツ、競技スポーツ、地域スポーツ、スポーツ環境の4本柱で組み立てていく予定である。</p> <p>また、特徴のあるスポーツをとというご意見で、特に倉敷市で1つの種目に決めているということはないが、「囲碁ボール」というニュースポーツがある。高齢者も障がい者もできるスポーツで、市のスポーツ推進委員が中心となって地域で推進している。</p>
委員	広く捉えればウォーキングなどもある。例えば児島なら鷺羽山等、地域の資源を活用し、広い意味でのスポーツなどのフレーズも入れてほしい。
市	総合計画では大枠で記載しているが、個別計画では、「鷺羽山など、

	倉敷市は豊かな自然もあり、身近なところで風景を見ながら、ウォーキングやジョギングするための環境整備を進めていく」といったことを記載している。
委員	そうしてもらえると観光にも活用できる。
分科会長	保健所など各地区でウォーキングマップ等もつくっている。5年以上前は市職員でも存在を知らない人もいたので、共有できたら良い。
市	総合計画案の限られたスペースでは、全てを拾い上げることが難しく、書ききれないところだが、個別計画で対応していきたいと思う。
委員	<p>前回、時間がなかったのだが、伝統的な工法や材料は、持続可能な材料でつくられていると考えているが、職人は不安定な収入と厳しい下積みが敬遠されて成り手がなく、高齢化が進んでいる。去年、瓦を新しく吹き替えた時も、職人は東南アジアの方だった。また建築材料や、和紙や和紙の材料などの原材料もなくなっている。</p> <p>失われていく技術や材料をここ10年で市民一丸となって守っていかなければ、伝統的な建築を守れなくなる危機感を感じている。職人の問題だけでなく、建物を維持している側にしても非常に高価な補修となり、維持管理が大変だ。例えば職人については、市内の工業系高校で漆喰塗りの時間を必須にするとか、観光分野での「体験」などを絡めていく必要があると思う。個別計画で対応するとしても、総合計画としてそれらを踏まえておくべきではないか。</p> <p>今、国が行って環境配慮型の住宅支援も、ハイスペックで汚れず、永久的に使える設備機器などを利用して、エコポイントがもらえる仕組みだが、果たして環境に配慮されているのかは疑問に思っている。</p> <p>伊勢の式年遷宮も20年で壊すことが、もったいないと思う人もいるが、実は20年で壊すから、5歳で体験した子どもが、25歳の職人として勉強し、さらに20年後、親方として若い職人を育てることにつながる。倉敷市として、もう少し1歩踏み込んでいただければと思った。</p>
分科会長	倉敷市は伝建地区や町並み保存、指定文化財でなくても登録文化財などで、努力しているところだ。技術も若い世代に受け継ぐといったサイクルがあり、続いてほしいと思う。美観地区で言えば、井上家を10年かけて、解体修理しているが、そういったところで雇用もあったりするのではないのかと思う。
委員	例えば、普通の住宅でも一部漆喰を塗れば補助金がでるとか、もっと底辺までいかないと文化財だけでは仕事が成り立たない。職種によっては岡山県にはいないので他所から来る職人もいて、前のめりな施策があると良い。
分科会長	ライフスタイルや居住スタイルにも関わってくるが、仕事として食べていけるという視点からも、今後、支援が必要かと思う。文化財の視点からの支援はかなりあると思うが、どの分野になるのかはわからない。
市	市として、その職人や部材を保護するという点を考えるなら82頁かと思う。分野は生活環境・防災・都市基盤で、3-11「先人から受け継いだ歴史的・魅力的な景観が、市内各地で守られている」で、なまこ

	<p>壁等の職人の支援を、技術の伝承等を含め何とか残していくというところでの取組を市としてできるのか、個別計画なども含めて担当部局と調整しないとわからない。</p> <p>一般住宅も漆喰を使ってというところになると、今の生活形態の中で、部材や職人の問題など、様々なことが出てくるし、市の取組として、そこまで踏み込んでいけるかというのは難しいことだと思う。ただ、伝統的な町並みを保存するという考えの中で、伝統的な技術を持つ職人やその技術の継承、人材確保など含めて考えていくことが、町並みの保存につながるという視点で、担当課と市として何ができるかといった話は確認してみる。</p>
分科会長	82頁と48頁は関わっているのか。
市	48頁は文化継承でソフト寄り、82頁は町並み保存でハードの話だ。
委員	<p>前回、町並み保存があるのに玉島の町並みがどんどん崩壊していくという話があったが、崩壊というより、歴史的な建物や景観の維持が本当に大変なためだ。我が家も瓦を修理するだけで500万円、白壁の修理に800万円かかった。市の助成金がなかったら維持できない。崩れるのではなく、致し方なく、江戸時代からある建物を壊して、今どきの住まいにしないといけない。玉島で廻船問屋が残っているのは我が家だけと思うが、今後どうやって守っていくか、残していくか、大きな課題だと思っている。</p>
分科会長	<p>市の大学連携講座を下津井と玉島で開催したが、その2年の間で玉島は伝統的な家屋のほとんどがなくなっているの、急ぎ対応していく必要があると思う反面、お金もかかると思う。北前船が立ち寄った港町玉島の遺構、石垣などは1軒しか残っておらず、支援できる方法はないのかと考えている。</p>
委員	<p>先ほどのことと重複するかもしれないが、12頁で繊維製造品出荷額第1位とあり、これは児島地区のことを言っているのではないと思う。2-5の産業のところ、この文言を入れてもらい、児島地区の繊維産業が1位であることを維持しないとイケないと思うので、そのためには伝統と革新、これを追究して、次世代につないでいくというフレーズを入れていただきたい。</p> <p>児島地区のみんなで頑張るんだということ、自分たちが1番であることを知らないと思うので、そういう誇りをもって、次につなげていくということを啓蒙ではないが、盛り込んでもらえたらと思う。</p>
分科会長	<p>若い人でも誇りに思っしてほしいということだ。</p> <p>革新という話も出たが、足袋がダメなら学生服で、学生服がダメになったらトレーニングウェアで、トレーニングウェアがダメになったらジーンズといった、短いサイクルでこれまでも努力しているので。</p>
委員	<p>維持するためには、新しいITの活用や違う分野への進出など、そういうことが必要になってくる。課題も含めて記載いただければと思う。</p>
市	<p>2-5の現状で、「現在繊維産業は全国1位の出荷量を誇っています」と示し、今後の課題では「それを維持、更に発展」とした上で、基本方針として、「そういった繊維産業の更なる充実に向けて支援する」</p>

		などのフレーズについて担当部局と調整したい。
委 市 委 員	員	できることなら、児島エリアという文言も入れてもらいたい。 地域名称を出すのは難しいかもしれない。
委 市 委 員	員	こういうことを若い人が知らないと思うし、人口が減少しているということも産業に携わる人が減っているということもあると思うので、そういうことによって、留まる人や訪れる人が出てきて、相乗効果が図れるのではないかと考える。
委 市 委 員	員	例えば、地区の名称よりもジーンズ製品等といった、児島を想定されるような言葉を盛り込むといった対応も考えられると思う。
委 市 委 員	員	そういった形でも構わない。
委 市 委 員	員	倉敷は8つの地区で成り立っているので、限定し過ぎない方が良い。 検討する。
分 科 会 長	長	11頁の図は、歴史文化基本構想に掲載されている地図だが、地域の割り振り等は苦勞をした。そういったことは忘れてはいけないと思う。 よく事業転換しながら、やってきたと思う。ずっと同じものでは儲けることはできない。技術の継承は行われていると聞いているので、そういったことを若い人にも知ってほしい。
委 市 委 員	員	9頁、1944年「中州町」の記載は「さんずい」がなくても良いのか。 確認する。
分 科 会 長	長	他に気づかれたこと等があれば、書面等でお知らせ頂きたい。

4. その他

5. 閉会